



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成28年8月3日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社タナベ経営  
コード番号 9644 URL <http://www.tanabekeiei.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 若松 孝彦  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長 (氏名) 松永 匡弘 TEL 06-7177-4000  
四半期報告書提出予定日 平成28年8月5日 配当支払開始予定日 ー  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	1,864	4.6	214	△0.8	227	0.9	154	△17.2
28年3月期第1四半期	1,783	9.7	216	55.5	225	47.1	186	91.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	17.88	—
28年3月期第1四半期	21.58	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	11,702	9,651	82.5	1,114.12
28年3月期	12,086	9,833	81.4	1,135.09

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 9,651百万円 28年3月期 9,833百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	38.00	38.00
29年3月期	—				
29年3月期(予想)		0.00	—	39.00	39.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成29年3月期の業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,650	0.4	300	△26.0	320	△23.8	210	△33.6	24.24
通期	8,500	2.4	865	1.0	900	1.6	590	1.3	68.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	8,754,200株	28年3月期	8,754,200株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	90,889株	28年3月期	90,889株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	8,663,311株	28年3月期1Q	8,663,319株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(3) 追加情報	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
第1四半期累計期間	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続いているものの、景気回復は足踏み状態が続き、中国を始めとする新興国経済の鈍化や英国のEU離脱問題の影響からくる海外景気の下振れリスクによる景気後退懸念が依然として払拭されず、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような経済環境のなか、「変化と成長」をスローガンとした「Tanabe Vision 2020」で掲げる、「C&C(コンサルティング&congromaritt)戦略」(コンサルティング領域の多角化)の推進のため、「ヘルスケア」「住まいと暮らし」等の事業戦略や、「人材育成」「ブランディング」等の組織戦略に精通した専門コンサルタントを配し、顧客課題にきめ細かく対応するドメイン(事業戦略)&ファンクション(組織戦略)メニューの拡大に努めてまいりました。

また、全国の主要10都市に事業所(ファーム)を配し、「地域で一番に選ばれるコンサルティングファーム」として地域に密着したサービスを提供できる体制をより強化するために、平成28年5月に九州本部を九州各地へのアクセスに優れたJR博多駅前に移転いたしました。

管理面におきましても、経営コンサルティング事業内の戦略総合研究所が、コンサルティング戦略推進の強化や商品開発・商品ブランディングに努めると共に、経営管理本部では、引き続き人材育成制度・採用体制の充実や「中堅・中小企業の戦略パートナー」としての企業ブランディング、コンプライアンス・リスク管理の推進に注力してまいりました。

また、高度化・専門化する顧客課題を解決できるコンサルタント人材の早期育成・戦力化を目的に、平成28年4月に社内ビジネススクール「タナベコンサルタントアカデミー」を創設いたしました。

このような取り組みの結果、当第1四半期累計期間の売上高は、18億64百万円(前年同期比4.6%増)となり、営業利益2億14百万円(前年同期比0.8%減)、経常利益2億27百万円(前年同期比0.9%増)、四半期純利益は1億54百万円(前年同期比17.2%減)となりました。

なお、当社が販売しているビジネス手帳(暦年版)が第1四半期会計期間、第2四半期会計期間、第4四半期会計期間に比べ、第3四半期会計期間に販売が集中する傾向があるため、業績に季節的変動があります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を変更しております。

<経営コンサルティング事業>

(チームコンサルティング型経営協力)

中堅・中小企業の戦略パートナーとして、顧客最適の視点でチームを編成し、チームコンサルティングを実施してまいりました。既存の「中期経営計画及びビジョンの策定」「ドメイン(事業戦略)別コンサルティング」「事業承継」等のテーマに、「3ボード(既存の「ジュニアボード」に「ネクストボード」と「ビジョンボード」を追加)」「アカデミー(社内大学)設計支援」等のテーマが増えた結果、経営協力契約数は、期中平均425契約(前年同期407契約)と順調に伸び、経営協力単価も伸長したことで、順調な売上となりました。

(人材育成・教育)

クライアントに対して、上記のチームコンサルティング型経営協力の提案を強化した影響で、環境変化へ合わせた新たな戦略に適合させるオーダーメイドの教育(研修)は、前年同期を下回る売上となりました。一方で、提携先の金融機関を対象とした階層別の人材育成支援売上は、堅調に推移しております。

(セミナー)

5月開催の「幹部候補生スクール」は、全国10拠点の内7拠点において、受講者数が前年同期を上回る結果となりました。また、6月から7月にかけて全国で開催した「ファーストコールカンパニーフォーラム」では、6月の開催数が前年同期に比べ増加したこと等により、セミナー売上は前年同期を上回りました。

(各種会)

「戦略ドメイン&マネジメント研究会」の開催テーマ数が、前年同期に比べ3テーマ増加したことや、当第1四半期累計期間における開催実施数が、リニューアルした「ファーストコールカンパニートップ会」を含めて増加したこと等により、各種会売上は、前年同期に比べ大きく伸長いたしました。

(アライアンス(提携)&会員)

全国の地域金融機関・会計事務所等とのアライアンス(提携)戦略につきましては、引き続き金融機関・会計事務所等の提携先の顧客支援を目的とした勉強会「経営塾」を実施し、中堅・中小企業を支援するオリジナルプログラムやサービスを提供してまいりました。その結果、提携数は150と前年同期に比べやや増加したものの、各種会員組織の会費収入や講演売上は、伸び悩む結果となりました。

このような結果、経営コンサルティング事業の売上高は、12億12百万円(前年同期比6.3%増)となり、セグメント利益は2億97百万円(前年同期比3.7%減)となりました。

<SP(セールスプロモーション)コンサルティング事業>

(SPコンサルティング)

「こどもがまんなかプロジェクト」等、若い女性や幼稚園・育児に関連する事業を手掛ける企業や市場へ向けた提案を重点的に実施してまいりました。その結果、プロモーション戦略の立案から推進までを支援するチームコンサルティングが好調で、前年同期を上回る売上となりました。

(SPデザインツール)

当第1四半期会計期間より、ノベルティ商品やカタログなどのコミュニケーションツールを、SPデザインツールとSPツールとに区分いたしました。SPツールが、ボールペンやクリアファイルなどの定番アイテムに名入れ加工を施したノベルティ商品であるのに対し、SPデザインツールは、当社の専門スタッフがデザインした独自性のあるノベルティ商品やOEM商品等を指し、このオリジナル商品の企画開発提案が好評で、前年同期を上回る売上となりました。

(SPツール)

SPツールは、継続した安定受注はあるものの、顧客開拓において、SPデザインツールの提案を強化したこともあり、前年同期を下回る売上となりました。

このような結果、SPコンサルティング事業の売上高は、6億52百万円(前年同期比1.4%増)となり、セグメント損失は52百万円(前年同期はセグメント損失72百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第1四半期会計期間末における資産合計は、117億2百万円となり、前事業年度末比3億84百万円減少いたしました。

流動資産は、前渡金の増加等がありましたが、配当金の支払等による現金及び預金の減少や売掛金の減少等により、前事業年度末比3億23百万円減少いたしました。

固定資産は、長期定期預金や保証金の増加等がありましたが、投資有価証券の減少等により、前事業年度末比60百万円減少いたしました。

(負債の部)

当第1四半期会計期間末における負債合計は、20億50百万円となり、前事業年度末比2億2百万円減少いたしました。

流動負債は、前受金や預り金の増加等がありましたが、未払金や買掛金の減少等により、前事業年度末比1億56百万円減少いたしました。

固定負債は、退職給付引当金の増加がありましたが、役員退職慰労引当金の減少により、前事業年度末比45百万円減少いたしました。

(純資産の部)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は、96億51百万円となり、前事業年度末比1億81百万円減少いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点では今後の業績予想につきましては、前回発表(平成28年5月13日)しました第2四半期累計期間及び通期の予想に変更はありません。

【注意事項】

上記予想は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

##### (平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による、当第1四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

### (3) 追加情報

#### (繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,302,779	4,079,097
受取手形及び売掛金	615,742	407,680
有価証券	1,719,166	1,520,222
商品	64,388	55,708
原材料	13,603	39,958
その他	252,992	542,637
貸倒引当金	△956	△826
流動資産合計	6,967,716	6,644,478
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	672,428	678,594
土地	1,527,477	1,527,477
その他(純額)	64,444	65,789
有形固定資産合計	2,264,350	2,271,860
無形固定資産	46,121	49,679
投資その他の資産		
投資有価証券	1,377,752	1,161,697
その他	1,430,757	1,574,932
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,808,509	2,736,629
固定資産合計	5,118,980	5,058,170
資産合計	12,086,696	11,702,649
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	338,563	205,336
未払法人税等	155,625	85,910
賞与引当金	214,500	111,000
その他	973,880	1,123,749
流動負債合計	1,682,569	1,525,997
固定負債		
退職給付引当金	195,447	200,912
役員退職慰労引当金	375,002	323,785
固定負債合計	570,449	524,697
負債合計	2,253,019	2,050,695



(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,772,000	1,772,000
資本剰余金	2,402,847	2,402,847
利益剰余金	5,606,646	5,432,312
自己株式	△39,319	△39,319
株主資本合計	9,742,175	9,567,841
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	91,502	84,111
評価・換算差額等合計	91,502	84,111
純資産合計	9,833,677	9,651,953
負債純資産合計	12,086,696	11,702,649

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	1,783,285	1,864,452
売上原価	885,894	943,932
売上総利益	897,390	920,519
販売費及び一般管理費	681,263	706,022
営業利益	216,127	214,497
営業外収益		
受取利息	2,109	4,158
受取配当金	5,601	5,080
その他	3,817	4,605
営業外収益合計	11,528	13,844
営業外費用		
有価証券評価損	740	1,286
保険解約損	1,913	—
その他	—	21
営業外費用合計	2,653	1,308
経常利益	225,002	227,032
特別損失		
固定資産除売却損	146	1,206
特別損失合計	146	1,206
税引前四半期純利益	224,855	225,826
法人税等	37,885	70,954
四半期純利益	186,970	154,871

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	経営 コンサルティング 事業	SP(セールス プロモーション) コンサルティング 事業			
売上高					
外部顧客への 売上高	1,140,057	643,227	1,783,285	—	1,783,285
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	2,617	2,617	△2,617	—
計	1,140,057	645,844	1,785,902	△2,617	1,783,285
セグメント利益 又は損失(△)	309,241	△72,000	237,241	△21,113	216,127

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去と報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	経営 コンサルティング 事業	S P (セールス プロモーション) コンサルティング 事業			
売上高					
外部顧客への 売上高	1,212,041	652,410	1,864,452	—	1,864,452
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	230	2,887	3,117	△3,117	—
計	1,212,271	655,297	1,867,569	△3,117	1,864,452
セグメント利益 又は損失(△)	297,692	△52,316	245,375	△30,878	214,497

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去と報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの名称変更)

当第1四半期会計期間より、従来の報告セグメントである「セールスプロモーション(S P)コンサルティング事業」を「S P (セールスプロモーション) コンサルティング事業」に名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第1四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称に基づき作成したものを開示しております。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当第1四半期会計期間に「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」を適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による、当第1四半期累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。